

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

第24回
障害のある人の
ための運転免許

要望の高かった事業を今年度も実施

被災地の仮設住宅に住む 高齢者の生活支援事業



スタッフの手作りの紙製の駒。孫のおみやげに、と持ち帰る人も。



平成24年度実施の様子



震災から1年半過ぎても、被災地の状況は色濃く残っています。被災者の生活支援事業を実施しています。

特 定非営利活動法人運転免許取得支援センター（略称：JAPI）は、宮城県の仮設住宅に住む高齢者の生活支援事業を行っている。昨年度から実施しているこの事業は、平成24年度独立行政法人福祉医療機構の助成事業として行うもので、昨年度実施の内容をさらに拡充させたもの。高齢者200人を対象に行った昨年度事業では、メタボリックシンドローム判定が29%、予備軍が14・5%。その中で大きくに病院へかかるべき人（入院の可能性が高い人も含む）が12名おり、血糖値が330、ベクトヘモグロビンが10・3を越え、立って歩いているのがやっと

と思われる人もいたという。メンタル面でも積極支援の必要な人が7%を越えている。

東北震災の支援ブームが終わったとばかりに多くのNPO法人が現地から撤退をし、自治体でも予防医学的な施策が進んでいない。そんな中JAPIでは、同事業の地域連携団体と共に、政策提言やメンタルヘルスチェック、健康・生活相談、食生活へのアドバイスなどを行っている（看護師、介護福

社士、生活相談員、研修を受けたスタッフが対応）。

「毎日まいにちの生活がある中で、高齢者の人は一度寝たきりになったら、要介護状態になりかねない。高齢者が倒れる前に、自立して生活ができるための持続可能な支援や地域コミュニティづくりをしていく必要があります。」「現地に届かなくてもできることがあります。」と支援参加への呼びかけを行っている。

「被災地の仮設住宅に住む高齢者の生活支援事業」とは

簡易血液検査キットを用いて、血液検査データからメタボリックシンドロームや胃がんなどの検査を行う。また、バイタルチェックや腹回り測定、問診などを行い、その結果を医師の指導のもとに本人や家族に伝えている。健康・生活相談、メンタルチェックなどの結果も含め、医療機関への受診や日常生活の見守り支援につながる活動を行っている。

毎日のように救急車が来ていると言われている某市の仮設住宅では、高齢者本人が自分の心身状態を気づいていないケースもあり、JAPIの活動が注目を集めている。

特定非営利活動法人運転免許取得支援センター

TEL: 03-5699-1613 E-mail: kamikawa@for-dab.jp

URL: <http://www.for-dab.jp>

●福祉車両の普及促進と運転環境改善のための集い

「みんなのくるま2012」【主催：(財) いしづえ】

JAPIは協力団体として、障害のある人の自動車の運転免許取得のための各種相談、自動車の架装などに関する相談ブースを出展する。遠方から相談に来て、免許したケースも多い。

日時：2012年11月11日（土）午前10時開場 相談ブースは13時から受付

場所：千葉県 高度ポリテクセンター [(独) 高度職業能力開発促進センター]

千葉県千葉市美浜区若葉 3-1-2